

# 令和6年度 風連中央小学校経営計画

## I 本校（施設分離型小中一貫教育学校）の教育目標（小中共通）

地域と共に育ち <b>知</b> <b>徳</b> <b>体</b>	たくましく未来を生き抜く 意欲的・協働的に学ぶ子供 前向きに認め高め合う子供 粘り強く心身を鍛える子供	子供の育成 【R3年改訂】
---	--	------------------

<p>【風連中央小学校 合言葉】                  「ほかほか いきいき きらきら みんなで輝け 風連っ子」</p> <p>【風連中学校 校訓】                  ◇創造・・・よいものを創ること                  ◇友愛・・・相手を思いやること                  ◇責任・・・正しく行動すること</p>
---

## II 経営の基本方針

【目指す学校像】～誇りとなる学校・やりがいのある学校～

“感動 夢舞台” 夢・愛・信頼に満ち、活力ある学校

【目指す教員像】～意識の高い教職員集団～

- 子供・学校への情熱を常に持ち続ける教員〔使命感・倫理観・教育的愛情〕
- 主体的に学び続ける教員〔実践的指導力・専門性〕
- 地域・保護者と連携・協働する教員〔学校の課題解決〕

【小中一貫教育スローガン】

“共創力”の中央小/風連中

## III 育成を目指す資質・能力の重点（◎） 【義務教育9年間で目指す子供像（15歳の姿）】

		矢口	徳	体
		意欲的・協働的に学ぶ子供	前向きに認め高め合う子供	粘り強く心身を鍛える子供
育成を目指す資質・能力	(ア) 知識及び技能の習得	◎各教科の基礎的・基本的な学習内容を理解することができる。	○道徳的な価値について理解することができる。	○健康・安全に関する基本的事項を理解することができる。 ○基本的な運動の技能を身に付けることができる。
	(イ) 思考力・判断力・表現力等の育成	○各教科の見方・考え方を生かして思考し、解決する力を身に付けることができる。 ○情報を適切に活用し、根拠に基づき発信する力を身に付けることができる。	◎自己を見つめ、多面的・多角的に考える力を身に付けることができる。 ○多様な価値を認め、他者と対話し、議論する力を身に付けることができる。	○健康・運動・安全に関する課題を見つけ、適切に対応し、解決する力を身に付けることができる。

(ウ) 学びに向 かう力、 人間性等 の涵養	◎ <b>未来の創り手として自覚し、夢や          目標に向かって最後までやり抜く          態度を身に付けることができる。</b> ○学びを日常に生かそうとする態度 を身に付けることができる。	○多様な価値を受容・尊重し、信頼 と友情を大切にすることを身に付 けることができる。 ○よりよい人間関係を築き、自分の よさを発揮する態度を身に付ける ことができる。	○運動に親しみ体力向上を目指す態 度を身に付けることができる。 ○健康・安全な生活を営む実践的態 度を身に付けることができる。
------------------------------------	---	--	--

## IV 本年度の学校経営

### 1 本年度の重点教育目標

#### (1) 地域・保護者の状況

風連地区は、平成18年3月に旧風連町と名寄市が合併し、新「名寄市」として新たな一步を踏み出した。その後、少子化に伴い、日進小中学校、東風連小学校、風連下多寄小学校が相次いで廃校となった。風連地区は伝統的に家庭の教育力が高く、地域と共に学校の教育活動が営まれていた。その伝統は本校に受け継がれたが、合併から10年が経過し、地域や家族の有り様は時代の流れとともに様々に変化してきている。本校は、地域の人的・物的な教育資源に恵まれているが、今後、より学校の現状に合った活用をしていくことが課題となる。また、令和2年度から風連地区小中合同の学校運営協議会（コミュニティ・スクール）に加え、地域学校協働本部連絡協議会が発足したことや、風連中学校との小中一貫教育がスタートしたことを機に、より地域と一体となった風連っ子のための教育を推進していくことが重要である。

#### (2) 子供の状況

知育の面については、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等の結果から、基礎的・基本的な知識・技能の定着はある程度図られているといえるが、問題の趣旨に沿って回答を記述することに課題が見られる。児童アンケートでも、「自分の考えを進んで発表すること」のポイントが低く、自分の思いや考えを言語化し、説明、表現することが苦手な傾向にある。また、全国平均と比べると1日の家庭学習時間が短く、ゲームや動画視聴などの時間が長いという生活習慣の課題も明らかになった。これらの課題を解決するため、ICTの効果的な活用や全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通して「主体的・対話的で深い学び」を実現する必要がある。

徳育の面については、日頃から友達との良好な人間関係を基盤に多くの児童が決まりを守り、楽しく学校生活を送っている。しかし、中には他者との関係をうまく築けない児童もおり、継続した指導が必要である。また、「他者への思いやり」や「共助の意識」が高い反面、自己肯定感は低い傾向にある。そのため、全教育活動を通して互いの良さを学び合う場面や自己の変容を振り返る場面を設定し、児童自身が成長を実感できるよう取り組む必要がある。

体育の面については、新体力テストの結果において学年によるばらつきがみられるものの全身持久力やスピードが低い傾向にある。特にコロナ禍の影響で運動機会が減少しており、体力の低下が危惧されている。体力向上は、運動習慣と共に主体的に運動に取り組もうとする個々の姿勢に大きく左右される。家庭や地域、風連中学校と連携し、児童一人一人の意欲を向上させ、体力・運動技能の向上や積極的に運動に親しむ態度の育成を進める必要がある。併せて、進んで健康・安全に生活する意識を育むことも必須となる。

以上の状況を踏まえ、本年度の重点教育目標を次のように設定する。

### 本年度の重点教育目標

## 自分の良さを伸ばし、チャレンジする子供の育成

～ well-being な学校づくりを目指して ～

◇主題について～義務教育の目的の一つ、一人一人の児童生徒の有する能力を伸ばすには、公教育として必要な共通性を担保しつつ、一人一人の「良さを徹底的に伸ばす」ことに対応しなければならない。また、社会で自立的に生きる基礎を培うためには、ストレスや困難に負けない児童生徒のレジリエンスを高め、自ら挑戦する場面を適切に設定する必要がある。そのため、本年度は、「自分には良いところがある」という自己肯定感を基盤に「自分の得意なことが伸ばせる」「苦手なことにチャレンジできる」子供の育成を重点教育目標として設定した。

◇副主題について～ウェルビーイングとは、「身体的・精神的・社会的に良い状態」にあり「持続的な幸福」を含む概念である。自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素とのバランスを取り入れることで、児童生徒にとって「毎日が楽しい」、教職員にとって「仕事ができるうれしい」と思える学校づくりを目指す。

## 2 本年度の重点的な取組

### (1) 教育課程（学習指導）

- ①義務教育9年間を見通した教育目標の具現化を図る教育課程の編成、実施、評価、改善を推進する。＜教＞
- ②ICT 機器の効果的な活用を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。＜全＞
- ③校内研修を軸に、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を推進する。＜研＞
- ④道徳的実践力を育む「特別の教科 道徳」の指導を充実させる。＜道＞
- ⑤体力・運動能力の向上を図るとともに健康安全意識を高め、望ましい生活習慣を育成する。＜体＞

評価基準	評価方法（目標値）
①PDCA サイクルを確立し、組織的・計画的に教育活動の改善・充実を図った。	教職員自己評価【3.3以上】
①勉強がわかり、授業が楽しい。	児童生徒アンケート【3.3以上】
①学校は、教育目標や教育の方針等を保護者や地域に伝えている。	保護者アンケート【3.2以上】
①全国学力学習実態調査全国平均	平均正答率+10P以上
①標準学力検査 BA・OA の割合	BA+OA=100%
②「デジタル教科書」「学習 e ポータル」「MEGBITT」等を積極的に使用して授業を行った。 ②ほぼ、毎日の授業で ICT（1人1台端末）を利活用した。 ②ICT 機器を個別に活用する場面と（思考ツール、記録、加工、創作、検索等）と児童生徒間で活用する場面（共有、交流、発表等）とを適切に組み合わせて授業を行った。	教職員自己評価【3.3以上】
②お子さんは、タブレット型コンピュータを使って学習することに慣れ、積極的に活用することができている。	保護者アンケート【3.2以上】
②デジタル教科書やタブレットなどを使った授業は、分かりやすい。	児童生徒アンケート【3.3以上】

③不断の授業改善及び家庭学習の定着・充実、放課後学習などの取組を行った。 教材を基にした「学習課題」を、「深い学び」に向かわせるための手立て（たとえば、対話における「深める問い」を準備している等）をもって、授業を行った。	教職員自己評価【3.3以上】
③お子さんは、毎日、家庭学習に取り組んでいる。 ③学校は、児童生徒が自分の考えをもち、伝え合いながら主体的に学ぶ教育活動に努めている。	保護者アンケート【3.2以上】
③毎日、家庭学習に取り組んでいる。 ③他の人の考えと自分の考えを比べながら学習している。	児童生徒アンケート【3.3以上】
④問題解決的で自分事として考える「特別の教科道德」の授業を行った。	教職員自己評価【3.3以上】
④お子さんは、道德の授業で学習したことが、普段の生活で生きている。	保護者アンケート【3.2以上】
④「道德の時間」では、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて、よく考えている。	児童生徒アンケート【3.3以上】
⑤運動の生活化、体力づくり活動などの取組を積極的に推進した。 ⑤健康安全意識の高揚と危機回避能力の育成、感染症予防意識の醸成など、安全教育の充実を図った。	教職員自己評価【3.3以上】
⑤学校は、児童生徒自らが心身を鍛える等、健康と安全の推進に努めている。 ⑤お子さんは、手洗いや規則正しい生活など、自分の健康について心掛けている。	保護者アンケート【3.2以上】
⑤規則正しい生活を意識して、安全や健康に関心をもって、生活している。	児童生徒アンケート【3.3以上】
⑤進んで運動やスポーツに取り組んでいる。 ⑤安全や健康に関心をもって生活している。 ⑤全国体力・運動能力、運動習慣等調査・新体力テスト ⑤全国体力・運動能力、運動習慣等調査質問紙	児童生徒アンケート【3.3以上】  体力テスト【総合評価 55以上】 【好き・大切 70%以上】

## (2) 生徒指導（学年・学級経営）

- ①年度の重点目標の具現化を図る学年・学級経営を推進する。＜教＞
- ②心理的安全性を確保し、充実感と所属感を味わえる特別活動を推進する。＜全＞
- ③発達段階に応じた自己指導能力を育成する生徒指導を充実させる。＜生＞
- ④いじめを未然に防ぎ、見逃さない校内体制を確立する。＜生＞
- ⑤児童生徒の良さや可能性を伸ばすキャリア教育を充実させる。＜教＞

評価基準	評価方法（目標値）
①年度の重点教育目標を踏まえた学年・学級経営案を立案し、実施、評価、改善を行った。	教職員自己評価【3.3以上】
①学校は、保護者の願いに応えるとともに、学校の様子を保護者に伝えている。	保護者アンケート【3.2以上】
②仲間と協力して取り組む特別活動の実践を工夫した。	教職員自己評価【3.3以上】
②お子さんは、相手を思いやったり、協力したりして、仲間と一緒に活動するよさを味わっている。	保護者アンケート【3.2以上】
②友達や他の学年の人と活動するのが楽しい。	児童生徒アンケート【3.3以上】
③決まりや約束を守る規範意識を育てる指導を進めた。 ③「自分も一人の人間として大切にされている」という自己存在感を、児童生徒が実感できるよう努めた。 ③自他の個性を尊重し、相手の立場に立って考え、行動できる相互扶助的で共感的な人間関係を構築を図った。 ③自ら考え、選択し、決定する、あるいは発表する、制作する等の活動の充実を図った。	教職員自己評価【3.3以上】
③お子さんは、ルールやマナーを守り生活している。 ③お子さんは、自分のよさを自覚している。 ③お子さんは、思いやりの心を持ち、よい友だち関係を作っている。	保護者アンケート【3.2以上】

③お子さんは、自分の気持ちや意思を表現することで、相手に伝えることができますか。	
③決まりや約束を守って生活している。 ③自分には、よいところがあると思う。 ③友達のよいところを見つけることができる。 ③自分の考えを進んで発表している。	児童生徒アンケート【3.3以上】
④「いじめ防止基本方針」に基づき、定期的な調査や教育相談の実施により、いじめの積極的な認知と、未然防止、早期発見・早期対応を組織的に行った。 ④心の居場所をつくる学年・学級経営に努めた。	教職員自己評価【3.3以上】
④学校は、子どもたちの交友関係づくり（いじめの未然防止、早期発見・早期対応など）に努めている。 ④お子さんは、いじめのない楽しい学校生活を送ることができている。	保護者アンケート【3.2以上】
④いじめのない、学校生活を過ごしている。	児童生徒アンケート【3.3以上】
⑤マイノート（キャリアパスポート）を活用するなど自分のよさを振り返る活動を重視した。 ⑤地域の教育資源や外部人材の活用を活用し、自分の将来に対して夢や希望をもてるような指導を充実させた。	教職員自己評価【3.3以上】
⑤お子さんは、将来についての夢や目標をもっている。	保護者アンケート【3.2以上】
⑤自分の将来について、夢や目標をもっている。	児童生徒アンケート【3.3以上】

### (3) 特別支援教育

①一人一人のニーズに応じた個別の教育支援計画、指導計画を作成し、実際の支援と連動させる。

<特>

②保護者や専門機関と連携し、一人一人の困り感や合理的配慮について共通理解を図るとともに組織的に対応する。<特・生>

③特別支援教育に関する研修を推進し、校内特別支援体制を充実させる。<研>

評価基準	評価方法（目標値）
①一人一人の実態に応じた個別の支援計画・指導計画を作成し、実際の支援と連動させることができた。 ②保護者や関係機関と連携し、一人一人の困り感に応じた合理的配慮の提供を行った。 ③一人一人の困り感の共通理解と校内特別支援体制を確立するための研修を十分行った。	教職員自己評価【3.3以上】
学校は、子どもの特性やニーズに合わせて個に応じた指導、支援を行っている。	保護者アンケート【3.2以上】
悩みや困ったことがあると先生は、相談にのってくれる。	児童生徒アンケート【3.3以上】

### (4) 学校力（働き方改革、地域連携、学校間連携）

①「名寄市アクションプラン（第3期）」の行動計画を基にした具体的な働き方改革に取り組むとともに、学校DXを推進する。<働・教・MDM>

②学校運営協議会や地域学校協働本部等と協働し、地域の人的・物的教育資源を有効に活用する。<教>

③風連地区小中一貫教育推進委員会を推進し、中学校との教育課程の連携強化を図る。<全>

④幼小、中高連携を充実させ、校種間の円滑な接続を図る。<教>

評価基準	評価方法（目標値）
①「名寄市アクションプラン（第3期）」の行動計画をもとにした具体的な働き方改革の推進を行った。	教職員自己評価【3.3以上】
①校内及び児童・保護者との情報共有のデジタル化に取り組み、校務の効率化を図った。	
①国や北海道・市が働き方改革に取り組んでいることを知っている。	
①学校は、メール等のデジタル媒体を活用して情報発信を行っている。	保護者アンケート【3.2以上】
①学校生活でも、タブレットを活用している。	児童生徒アンケート【3.3以上】
②地域の教育資源や外部人材の活用を位置づけた特色ある単元の実践、検証と改善を継続した。	教職員自己評価【3.3以上】
②学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいる。	保護者アンケート【3.2以上】
②学校の外での活動や地域の人と関わる学習は、好きだ。	児童生徒アンケート【3.3以上】
③施設分離型小中一貫教育学校の認識をもち、「active15!」の取り組みを進めた。	教職員自己評価【3.3以上】
③風連地区小中一貫教育における「active15!」の取り組みに努めている。	保護者アンケート【3.2以上】
④（小）スタートカリキュラムやの編成・実施・評価・改善や交流活動を推進した。	教職員自己評価【3.3以上】
④一人一人の困り感や合理的配慮についての情報を確実に引き継げるように努めた。	

#### （5）予算、教育関係整備

- ①効果的な予算執行と適切な事務処理を推進する。＜事＞
- ②諸帳簿、文書及び情報を適切に管理する。＜事・MDM＞
- ③校舎内外の施設・設備の美化・整理整頓に努め、定期的な安全点検を推進する。＜体・事＞
- ④教育活動の質の向上及び教職員の業務改善のため、ICT環境の充実を図る。＜事・MDM＞

評価基準	評価方法（目標値）
①教育公務員としての立場を自覚し、効果的で適切な予算執行を行った。	教職員自己評価【3.3以上】
②教育公務員としての立場を自覚し、適切に諸帳簿、文書及び情報の管理を行った。	教職員自己評価【3.3以上】
③校舎内外の施設・設備の美化・整理整頓に努め、安全点検を定期的に行い、危険箇所・破損箇所などの対策が取った。	教職員自己評価【3.3以上】
③学校は、普段の掃除や施設の補修など、整理整頓された環境づくりに努めている	
④校務支援システムやクラウドサービスを活用し、校務の情報化に取り組んだ。	教職員自己評価【3.3以上】
④機器及びデータの適切な管理・運用に努め、活用しやすいように整理して、閲覧できるよう努めた。	
④学校は、ICT環境の充実に努めている。	保護者アンケート【3.2以上】